

令和3年度 入学式 式 辞

春の暖かな日差しと風が新たな生活のスタートを告げる今日の良き日に、ご来賓であります同窓会副会長黒石真様、本校PTA会長大島将生様のご臨席、そして新入生の保護者の皆様のご列席のもと、令和3年度兵庫県立社高等学校入学式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり誠に嬉しく存じます。本校を代表し深く感謝申し上げます。

先ほど入学許可をされた第76回生236名の皆さん。ご入学おめでとうございます。職員一同、心より歓迎いたします。そして保護者の皆様、お子様のご入学誠におめでとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様のご尽力に心より敬意を表しますとともに、私たち教職員は一人一人を社会人として恥ずかしくないよう育てていかねばならない責任の重さに身の引き締まる思いでございます。どうか本校の教育活動にご理解並びにご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、去年は新型コロナウイルス感染防止対策に明け暮れた1年でした。臨時休業の影響で学校行事の変更も余儀なくされ、感染拡大による教育活動の縮小は生徒たちにとってとても残念なことでした。しかしながらそんな状況であるからこそ、できる事は何か、どうやったらできるかを考え、知恵を出し合い、限られた中での活動の幅を広げることができたと思っています。今だからこそできる事、やらねばならない事、守らなければならない事など、普段何気ない生活を送っていたときには気づかなかったようなことに気づかせてくれたのではないのでしょうか。そうした生活の中で、「普段通りにできることのありがたさ」や支え合うことの大切さを学び、一つのことを成し遂げるために多くの人の協力があったことも実感できたでしょう。私達職員も、当たり前前にできていた授業、当たり前前にやっていた行事や部活動などが普段通りにできないことの不自由さ、心の痛みを知ることになり、学校教育の大切さや毎日の学校生活のありがたさを改めて感じることになりました。そんな私達だからこそ知恵を絞ってできるだけ普段通りの教育活動をしていきたいと考え、生徒の皆さんにも働きかけを多くしてきました。今までは普通にできてきたものが普通にできなくなった、十分な時間をとれなくなったとき、同じ成果を出すためには工夫が必要です。その工夫は一人の力で出せるものでもなく、いろいろな人が知恵を出し合うことでよりよいものになり、今の感染状況が落ち着いたときには、大きな成果となって現れるはずです。新入生の皆さんと共に変わりゆく生活様式にあった社高校の教育活動を追求していきたいと思っています。

そんな皆さんに、実業家のウォルトディズニーが残した言葉を伝え、高校生活をスタートさせてほしいと思っています。それは「夢をかなえる秘訣は、4つの「C」に集約される。それはCuriosity、Confidence、Courage、そしてConstancyである」という言葉です。Curiosityは好奇心、Confidenceは自信、Courageは勇気、Constancyは継続と言う意味です。皆さんもご存じのとおり、ディズニーのキャラクターやイベントなどはどれも斬新で、人気があり、元気をもらえたり、勇気をもらえたり人々を喜ばせてくれます。ウォルトディズニーは「好奇心はいつだって新しい道を教えてくれる」とも言っており、行き詰まったときに次の一手を差し伸べてくれるものが好奇心だと考えたそうです。また「新たなプロジェクトを一度やると決めたらとことん信じ込まなければならない。うまくやる能力があると信じこれ以上ないくらい最高の仕事をするんだ」と自信を持つことの大切さを説いています。またディズニーは会社を立ち上げたときに優秀な人材を引き抜かれ、倒産寸前まで追いやられたそうで、そのときに負けじと奮闘してミッキーマウスというキャラク

ターを作ったと言われていました。自らの持てる力を信じることは大切です。さらにディズニーランドの建設には多くの反対意見がある中、リスクを顧みずに突き進み大成功を収めました。一步を踏み出す勇気の必要性を教えてください。「勇気は出るものでなく出すものである、すべては一匹のネズミから始まった」とも言っており、何かをスタートさせたら継続する勇気を持つことでチャンスをものにできるという次の言葉につながっていきます。その継続することの大切さは多くの人が語っています。パナソニックという会社の前身である松下電器の創始者松下幸之助さんも「失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる」という言葉を残しています。失敗はあるものですが、失敗と感じるかどうかは人それぞれです。失敗を間違いの気づくチャンスだと思えば成功への道のりとして考えることもできます。先ほどのディズニーもどうしたら成功できるのかという質問に対しては、「やってみることだ」と答えています。好奇心を持ち、自信を持って、一步を踏み出すこと、そしてそれを継続していくこと、当たり前前を当たり前前に言われていますが、こういったことから普段の何気ないことが大切だということはわかってもらえると思います。特別なことはしなくても良いのです。一步踏み出す勇気を持って、やろうと思ったことを継続する、そしてどうすれば思ったことができるかをしっかり考えるということを経験化していけば、充実した高校生活になるでしょう。学びたい学習を極める、部活動をしっかり取り組む、そして将来に結びつけることを考える、そういった学校生活が送れるように私達は皆さんと向き合っていきます。そして皆さんが進むべき道を見つけ、18歳成人となる高校3年生を迎え、社会に貢献できる人間に育てられるよう支えていきます。多感な高校時代には悩んだり、躓いたり、苦しい思いをしたりすることも多いかも知れません。しかしながらその一つ一つが皆さんがこれから生きていくための糧となることは間違いありません。目をそらしたり、逃げたくなったりすることもあるでしょう。そんなときは、是非相談に来てください。皆さんの先輩、私達教員は必ず皆さんを支え、皆さんが答えを出せるように導いて行きます。

最後に職員一同、皆さんの成長を心から願っています。そして、皆さんをしっかりとサポートしていきます。そのことを保護者の皆様にもお約束し、皆さんの高校生活の充実と活躍を期待しまして式辞とさせていただきます。

令和3年4月8日
兵庫県立社高等学校
校長 若浦直樹